

2018年(平成30年)5月23日(水曜日)

言堂

## 薬科大 歴史語る資料室

### 明治期辞書や生薬標本展示



貴重な生薬標本などが並ぶ「愛学  
躬行歴史資料室」(山科区で)

京都薬科大(山科区)で、1884年(明治17年)の創立から集められてきた貴重な資料や生薬標本を展示する「愛学躬行歴史資料室」が完成し、22日、関係者に披露された。

同大学は明治時代、府に雇われたドイツ出身の教師ルドルフ・レーマン氏の薫陶を受けた門下生が、西洋の医学・薬学の修得を目的に設立した京都私立独逸学校が前身。ドイツ語のほか物理、化学などの薬学関連科目も教えるようになり、私立京都薬学校、京都薬学専門学校を経て、1949

年に京都薬科大となった。資料室には、1877年にレーマン氏が校訂した日本初の和独辞典を展示。見出し語はローマ字にカタカナが添えられている一方、並びはアルファベット順ではなくいろいろは順で、明治期の外国語辞書のあり方を知る上で貴重な資料という。また、京都私立独逸学校創立時の試験成績簿のほか、イツカクの牙やマッコウクジラの腸結石など、珍しい生薬標本60点なども並ぶ。後藤直正学長は「20代の学徒が原点を作り上げた大学。明治時代の息吹を感じてもらえれば」と語った。

開館日時は不定期。見学希望、問い合わせは同大学同窓会「京薬会」(075・595・4621)。